地理の写真館

社会主義国キューバ
—首都ハバナを訪れて—

写真・文　栃木県立栃木翔南高等学校　**須藤 進太郎**

▲① 内務省の壁に設置されたゲバラ像とキューバ国旗

▲② 小さくてかわいいココタクシー

▲③ カルロス=マヌエル=デ=セスペデスの像

▲④ アルマス広場のSL

▲⑤ カピトリオ（旧国会議事堂）

2018年12月31日に日本を出発し，キューバに向かった。日本からの直行便はなく，今回はメキシコシティ経由を利用した。日本とキューバが外交関係を結んだのは90年前の1929年12月21日である。したがって2019年は日本・キューバの外交関係樹立90周年の節目にあたる。また2019年は革命勝利から60周年を迎える。

ハバナへは夜遅くなってからの到着だったうえに，電力不足の影響により，それなりの人が外に出ているにもかかわらず，かなり暗かった。

翌日，新市街の中心にある革命広場を訪れた。１月１日だったからなのかチェ=ゲバラの肖像のとなりには大きなキューバ国旗が掲げられていた（**写真①**）。この革命広場には何組かの観光客が訪れていた。また革命広場の近くにはココタクシーとよばれる窓がないバイクタクシーが多数駐車していた（**写真②**）。あとで乗車したが，晴れているとここちよい風が当たり気持ちがよかった。ただほかの車の排ガスは気になった。

アルマス広場はハバナの旧市街の中心にある小さな広場である。広場内を数名の人々が散歩していた。中央には，スペインからの独立を宣言し，第一次独立戦争を開始したカルロス=マヌエル=デ=セスペデスの像が立っていた（**写真③**）。

キューバは中南米で最初に鉄道が開通した国であり，アルマス広場にはSLが展示されていた（**写真④**）。1883年にアメリカ・ボールドウィン社によって製造されたようである。アメリカ合衆国議会議事堂とそっくりな建物はカピトリオ（旧国会議事堂）である（**写真⑤**）。1929年にワシントンD.C.の議事堂をモデルに建てられた。ドームの高さは98mにもなる。

旧市街の公園には支倉常長（はせくらつねなが）像がある。彼は欧州交易拡大のため慶長遣欧使節として1613年に送り出され，ローマに向かう途中でハバナに立ち寄っている（**写真⑥**）。

キューバの通貨には，キューバ国民が使う「人民ペソ（CUP）」と，おもに観光客が使う「兌換（だかん）ペソ（CUC）」とがある。キューバには配給所があり（**写真⑧**），ここでは人民ペソで買い物をしているようで，入口には外貨兌換券である兌換ペソ（CUC）からの両替所があった。レートは25人民ペソ（CUP）＝１兌換ペソ（１CUC＝約109円）である。なお米は１か月で一人４ポンドまで配給されるようである。卵，チキン，砂糖，塩，石鹸，オイル，豆，パンなどは安く配給されているが，それではたりなくて，市場でパンなどを購入しているようだ。また学費や医療費は無料だが，キューバ国民の給与は低い。ちなみに月の平均給与は756人民ペソ（約3,300円）＝30兌換ペソほどであり，65歳まで30年間働いた男性の年金は226人民ペソほどのようだ。したがって，国外に

▲⑥ 支倉常長（はせくらつねなが）像

▲⑦ ラ・ボデギータ・デル・メディオ

▲⑨ コヒマルにある要塞

▲⑧ 右側の建物は外国人も利用できる市場。奥の建物がキューバ国民のための配給所

▲⑩ Wi-Fiスポット

出ることはかなり厳しい環境のようだ。ただ，住居も政府から支給されるので，生きていくための最低限度の生活は保障されている。

ハバナ市内の商業施設では電化製品や日用品，食料品などが販売されており，日常生活で使う物はほぼそろうくらいの多彩な店舗が入っていた。

ハバナの旧市街ハバナ・ビエハには，文豪アーネスト=ヘミングウェイがこよなく愛したラ・ボデギータ・デル・メディオという店（**写真⑦**）がある。ここはハバナ発祥のモヒートなどを飲むために多くの観光客でにぎわいをみせていた。またヘミングウェイが暮らした港町のコヒマルは，ノーベル文学賞を受賞した『老人と海』の舞台となった場所である。ハバナのダウンタウンから車で行けばほんの数十分と近く，のどかな海辺の景色を目にすることができる。このコヒマルの海岸には小さな要塞（**写真⑨**）があり，建物の中にはフィデル=カストロが描かれていた。この要塞は海賊から島を守るために17世紀に築かれたようである。また要塞の近くにはヘミングウェイの胸像が設置されていた。この像はヘミングウェイの死後，町の人たちによって建てられたという。彼がいかにコヒマルで愛されていたかがよくわかる。

インターネットは国営企業が販売するWi-Fiカードを購入することで，限られた場所ではあるが，つながるようである。訪ねたWi-Fiスポットは，クラシックカーが５～６台は停められるほどの広さがあった。ハバナの町を行きかうクラシックカーは，アメリカ合衆国との国交断絶により，古い輸入車を修理しながら使っていたことに由来する。クラシックカー（タクシー）の並ぶWi-Fiスポットでは，若者がスマートフォンに見入っていた（**写真⑩**）。

今回はハバナ中心の訪問であったが，アメリカ企業であるマクドナルドやスターバックスはない。また，アメリカ企業の保険やカードは使用できないようであった。さらに米ドルからの両替レートは悪い。ハバナからマイアミまではおよそ370kmしか離れていない。アメリカ合衆国との関係はよくないが，マイアミとの間には多くの飛行機が飛んでいる。

アメリカ合衆国のドナルド=トランプ政権はアメリカ合衆国からキューバへの航空便をハバナ行きを除きすべて禁止する，とAP通信が報じていた（2019年10月25日）。またアメリカ合衆国の運輸省は，ジェットブルーとアメリカン航空のサンタクララ，オルギン，カマグエイ行き航空便が12月10日から禁止される，と発表した。アメリカ合衆国の対キューバ経済・貿易・金融封鎖が厳しくなっており，今後の動向が注目されるところである。